慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	執筆者紹介
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1963
Jtitle	史学 Vol.36, No.1 (1963. 8) ,p.112- 112
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19630800-0112

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

服し得たか否か、であるが、単に異説や個別的な事実の引用によって批判するだけで、自分の主張するアルメニア・メソポタミア起源説の裏付は推論が不十分のようである。特に、Khaldunの社会学の中にある"arab"と云う言葉の普遍性を無視して、純粋のアラビア人にだけ限っていること（この点について、拙稿「史学」Vol. 33, No. 3-4, p. 168 参照）や定住化を単に暴力的な侵入とだけ考え、より深い社会的原因を考えないこと、ヘブライ人の沃地定着と他のベドゥインのそれを別ものとするのに、Dussaud, Dupont-sommer, N. Glueckその他の有力な学者たちが、アラム人やナバテア人の定住運動をもって、史料に欠けるイスラエル族長たちの定住過程を知るためのAnalogy と看做して来たことに対する見解が示されていないこと、又 Khaldun 的な定住化理論は必らずしもセム人の起源の問題を中心として立てられたものではなく、むしろ部族社会から古代国家への過程を説明する理論とも解されるが、その点の説明が不十分なこと、等々が感じられた。

執筆者紹介

清水潤三	慶応義塾大学文学部教授
三橋富治男	千葉大学文理学部教授
鈴木公雄	慶応義塾大学院博士課程
森岡敬一郎	慶応義塾大学文学部助教授
武田勝蔵	武蔵工業大学教授
神山四郎	慶応義塾大学文学部助教授
小川英雄	慶応義塾大学文学部助手